

「きっと、心の中に平和はある」

長岡市立北中学校 3年 大関 百花

「命を張って戦っている人にあなたなら手を差し伸べますか？」世界中の人々がこの質問に「差し伸べる」と答えたとき、平和は訪れると思います。

私は、中学生海外体験でホノルルに行き、戦艦ミズーリに乗りました。戦艦ミズーリは実際に戦争で使われていたものであり、たくさんの歴史が刻まれています。その中で私は神風特別攻撃隊の突撃跡が今でも心に残っています。「このへこみはなんだろう。」一つの疑問から始まった平和への一歩は、私の考え方を大きく変えました。

今から80年以上前、日本は戦争の火蓋を切りました。アメリカ合衆国のハワイ州に奇襲攻撃をしたのです。どれほどの人が命を落とし、苦しんでいたのか。それはきっと想像をはるかに超える厳しいものだったと思います。そこで私は、戦争をしている人は誰一人として優しい心、思いやりの心を持っていないと思うようになってしまいました。このような私の考えを変えたのは、当時の戦艦ミズーリの艦長、ウィリアム・キャラハン大佐の亡くなった日本の特攻隊員への対応です。ある特攻隊員が特攻機に爆弾を積んでミズーリに突撃しました。国のために命を張って突撃しました。ですが、載せていた爆弾は不発弾でした。ミズーリの艦隊には小さなへこみと焦げ跡しか残らなかったのです。キャラハン艦長は日本の特攻隊員がミズーリにぶつかってきたのにも関わらず、「一人の勇敢な兵士」と称え、水葬を行ったのです。そして、丸一日かけて日の丸の旗をつくり、遺体にかけました。対戦国の特攻隊員にまで敬意を払う姿、これは平和そのものを表していると思いました。国、言語、文化すべて違っても、心のなかにある優しさは世界共通だったと気づき、胸が熱くなりました。この出来事から、平和実現へのヒントを得た気がしました。

私は、ホノルルでのたくさんの経験から「平和」とは、誰もが持っている思いやりの心を周りに繋いでいくことで実現すると考えます。心の中にある優しさや思いやりを周りに向け、キャラハン艦長のように国籍関係なく、一人の「人間」として平等に周りを見ることができればきっと、世界から戦争はなくなると思います。誰でも、困っている人に「手を差し伸べたい」という優しい気持ちはあります。この優しい気持ちに蓋をせず、平和への第一歩として周りにつなげてみませんか。勉強に困っていたら、教えてあげる。人間関係で困っていたら、話を聞いてあげる。このような小さな行動も平和への一歩なのです。あなたのあたたかい一歩でたくさんの人の心の蓋をあけ、笑顔で溢れた世界を目指しましょう。一人ひとりの行動がやがて世界に広がり、平和を作ります。

そして私は信じたい。「きっと、心の中に平和はある。」